

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
福山市立緑丘小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	3	2	3	3	3	3	17	8	25

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
算数	6	3	5	15	
算数	5	1	5	5	

授業時数 計 20 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
体育	4	1	3	3	

授業時数 計 3 (b)

授業時数 合計 23 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1組 (担任: A)	A	A	A	推進	専科	専科	A	A	A	A	A	A	A
6年 2組 (担任: B)	B	B	B	推進	専科	専科	B	B	B	B	B	B	B
6年 3組 (担任: C)	C	C	C	推進	専科	専科	C	C	C	C	C	C	C

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 2組 (担任: D)	D	D	D	推進	専科	専科	D	D	D	D	D	D	D

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	道徳	外国語活動	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	7		2.6	5	3	1.7	1.7	3	1	1	2	1
4年 1組 (担任: E)	E	E	E	E	専科	専科	専科	推進	E	E	E	E

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数(d)	授業時数の合計(c)+(d)
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6-1	34	A	4-3	書写	1	1	19.6	20.6
6-2	35	B	4-2	書写	1	1	19.6	20.6
6-3	35	C	3-1	書写	1	1	19.6	20.6
5-2	33	D	5-1	外国語	2	4	19.6	23.6
			5-1	書写	1			
			3-2	書写	1			

5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

〈効果のあった取組〉	
①	<p>〇つまづきを踏まえた授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生3クラスの指導を通して見えた児童のつまづきを踏まえ、問題場面を理解し、正しく立式ができるように具体物を使って導入を行ったり、学習端末を使って図形を操作したりする等、授業改善につなげることができた。 ・教科担任制推進教員と学級担任が日常的に連携を行い、児童の課題を共有するとともに、家庭学習等の取組状況を把握し、授業中の机間指導で理解を促す声掛けをする等、支援の充実に図ることができた。 <p>〇視覚による支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルコンテンツの活用など視覚支援を行った。また、教具を児童が操作することで知識・技能の定着を促した。例えば、6年生「角柱と円柱の体積」の学習では、実際に円柱形を16等分し、形を変えることで直方体のような形になり、体積を求めることができることを示した。
② ③ ⑤	<p>〇肯定的評価を行う機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の授業での様子や普段の様子を教科担任制推進教員と学級担任が放課後等の時間を活用して連携し、授業や休憩時間等の場面で肯定的な声掛けを行った。 <p>〇授業外の学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休憩時間に空き教室を活用し、算数教室を開設した。欠席等で授業を受けることができなかった児童のフォロー等を行った。また、児童が自主的に算数プリント等ができる環境を作った。



〈成果〉	
①	<p>〇基礎・基本の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科単元末テストにおいて全国平均以上の児童の割合を70%以上にするを目標にしていたが、1・2学期実施分については、知識・技能の観点において全国平均以上の割合が71%であった。なお、年度末調査問題については、3月中に実施し、検証を行う。
②	<p>〇児童との信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教科担任制で学ぶことで分からないことや困ったことを相談できる先生が増えました。」の肯定的回答 第1回64.4%→第2回71.5%
③	<p>〇中学校への不安解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中学校から教科ごとに先生が代わることに對して、不安がなくなりましたか。」の肯定的回答 第1回80.0%→第2回83.7% ・「教科担任制で学ぶことで、いろいろな先生と話す機会が増えましたか。」の肯定的回答 第1回64.4%→第2回84.5% ・「教科担任制になってよかったですか。」の肯定的回答 第1回87.8%→第2回92.2%
⑤	<p>〇魅力ある学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に関するアンケート「学校には、あなたのやりたいこと(したいこと・やってみたいこと)がありますか。」の肯定的評価を80%以上にするを目標にしていたが、12月末時点で5年生83%、6年生85%であった。

〈課題〉

- ① ○思考力・判断力・表現力等の高まり
・算数科単元末テストにおいて全国平均以上の児童の割合を70%以上にすることを目標にしていたが、1・2学期実施分については、思考・判断・表現の観点において、全国平均以上の割合が51%であった。
・「学習に関するアンケート」の算数の勉強に対する質問において、肯定的評価を80%以上にすることを目標としていたが、「算数の授業は好きですか」という項目において、第5学年は76%、第6学年は47%と目標を下回る結果となった。
・児童が「学びたい、やってみたい」と思うような授業づくりが十分にできていなかったことが要因の1つとして考えられる。
- ② ○新規長期欠席児童の増加
⑤ ・昨年度末と比べて長期欠席児童の全体数は7人減ったが、5、6年生における新規長期欠席児童は9人であった。
・児童の様子を多面的に捉えられるという教科担任制の良さを生かし、友人関係や家庭の様子等、教職員間の情報共有を図る手立てや仕組みが十分ではなかったことが要因の1つとして考えられる。

〈対策〉

- ① ○導入の工夫
・授業の導入場面では、問題提示の際に問われていることは何か、この数字は何を表しているのか等を確認することで、すべての児童が問題を理解できるようにし、課題意識をもって学習に取り組むことができるようにする。
○授業展開の改善
・児童が思考したことを表現する時間を十分にとる。自分の考えを図や式、言葉でノートにまとめたり、児童同士で交流したりすることを通して、思考力・判断力・表現力等が身につくようにする。
○学習内容を日常の事象とつなげる
・「算数がおもしろい」と感じられるようにするために、授業において日常の事象から算数の問題を設定し、解決する活動を取り入れたり、学習した内容を生活の中で探す課題を出す等、家庭学習を工夫したりする。
- ② ○個の見取りの充実
⑤ ・児童の様子の中で、頑張ったことやできたこと以外にも、気になることについて学級担任と連携を取り、複数の教員から児童の様子を確認することができるようにする。また、児童の様子を記録し、児童の変化を担任と共有する。